

建通新聞

令和6年8月6日（火曜日）

河川整備計画の見直し「加速を」

足立参院議員

足立敏之参院議員は、

山形県、秋田県で7月25日、26日に発生した豪雨災害の被災地を視察した。写真。建設専門紙の取材に対し、「従来と降雨のパターンが変わってきている」との認識を示し、「気候変動の影響を考慮した河川整備基本方針、河川整備計画の見直しを加速する必要がある」との考えを述べた。

山形県・秋田県で発生した豪雨では、最上川の古口水位観測所をはじめ15カ所で観測史上最高水



位となるなど、記録的な出水となった。

山形県内では、越水が発生した荒瀬川の被災現場、新田川の決壊地点付近を視察。秋田県では、子吉川と湯の沢川合流部の破堤箇所や、石沢川の破堤箇所を視察した。各地で地元自治体や、災害復旧に当たっている建設企業、国土交通省職員から状況を聞いた。

視察を踏まえて足立参院議員は、激甚水害に見舞われた河川での再度災害防止対策の必要性を強調。合わせて、重要な道路区間については事前の防災対策を行い、あらかじめ信頼性の高い道路整備を進める必要があるとした。現在建設中の鳥海ダムを例に、下流の水位を低下させる効果が見込まれるダムの着実な整備を求めた。

この他、陥没による通行止めが発生した日本海沿岸東北自動車道を念頭に、路面からの排水を担う側溝のサイズ見直しなど、河川施設以外の構造物でも気候変動への対応が必要になるとの見方を示した。